

A photograph of four young children, two boys and two girls, standing in a line and looking out of a large window. They are wearing school uniforms and backpacks. The scene is brightly lit with warm sunlight, suggesting a morning or afternoon setting. The background outside the window shows a residential area with houses and trees.

子どもたちの「かけがえのない一年」 を守るために 令和8年度からの「チーム担任制」導入について

私たちの揺るぎない目標は、 子どもたちの「人格の完成」です

教育の目的は、知識を授けることだけではありません。
道徳心、豊かな情操、健やかな身体を調和的に育むこと。

将来、平和で民主的な社会を支える「自律した人間」を
育てること。

学校は、他者との関わりを通して自他の幸福を追求する
素地を培う、大切な準備の場です。



急速に変化し、複雑化する社会の中で

現在、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

- 急速な情報化と価値観の多様化
- 学力差の拡大
- 不登校傾向の増加
- 人間関係の複雑化

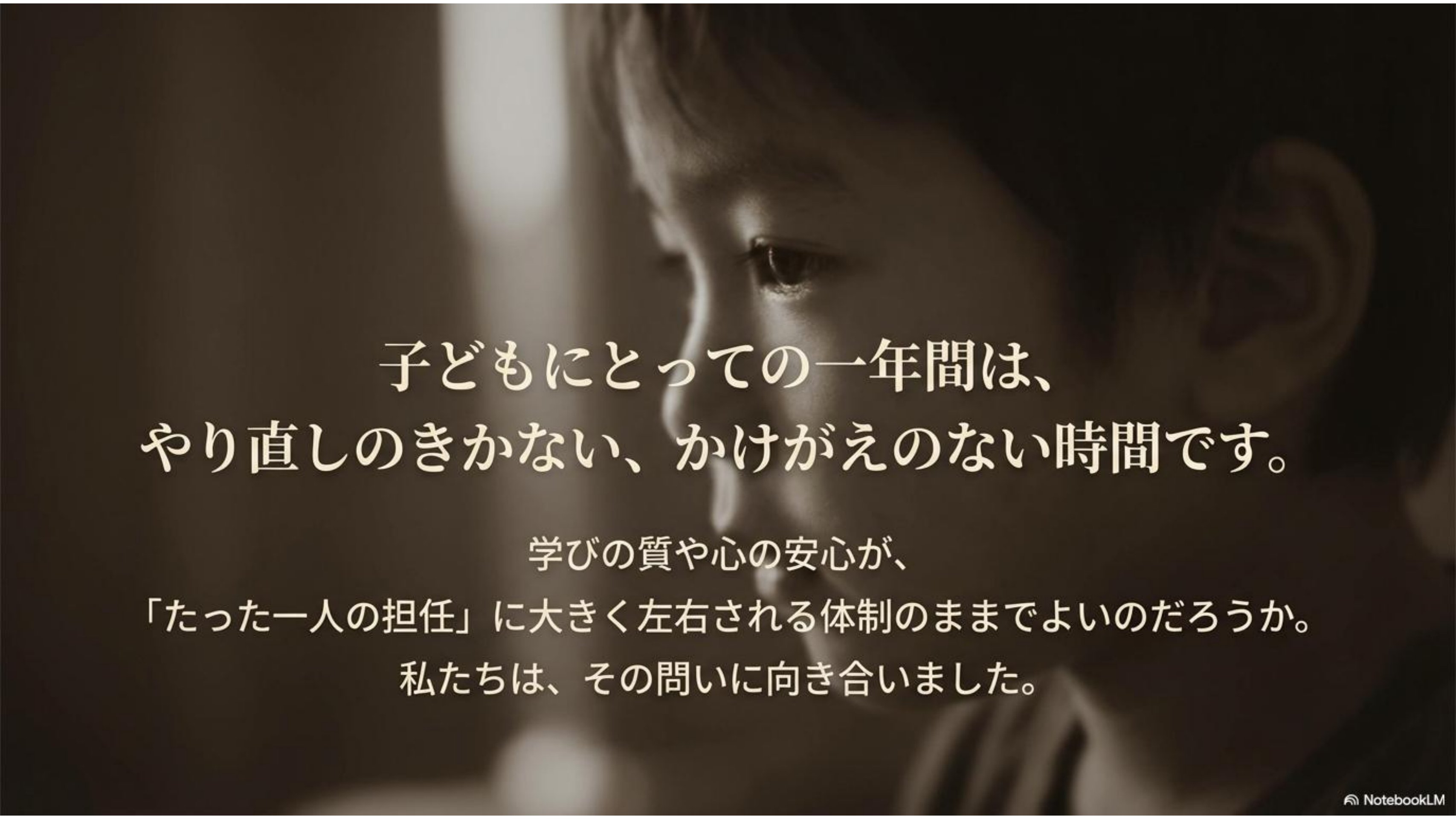
学校が抱える課題は、年々複雑さを増しており、かつての「当たり前」が通用しない時代を迎えています。



従来の「固定担任制」が抱える避けられない限界

一人の担任が学級を一年間指導する形は、理想的に機能すれば大きな成果を上げます。しかし現実には、構造的な課題が存在します。

- 学級間格差：授業の質や指導方針に差が生まれる可能性
- 心理的負担：担任との相性が合わなかった場合の逃げ場のなさ
- 多様性への対応：一人の視点だけでは、多様な価値観や背景を支えきれない難しさ



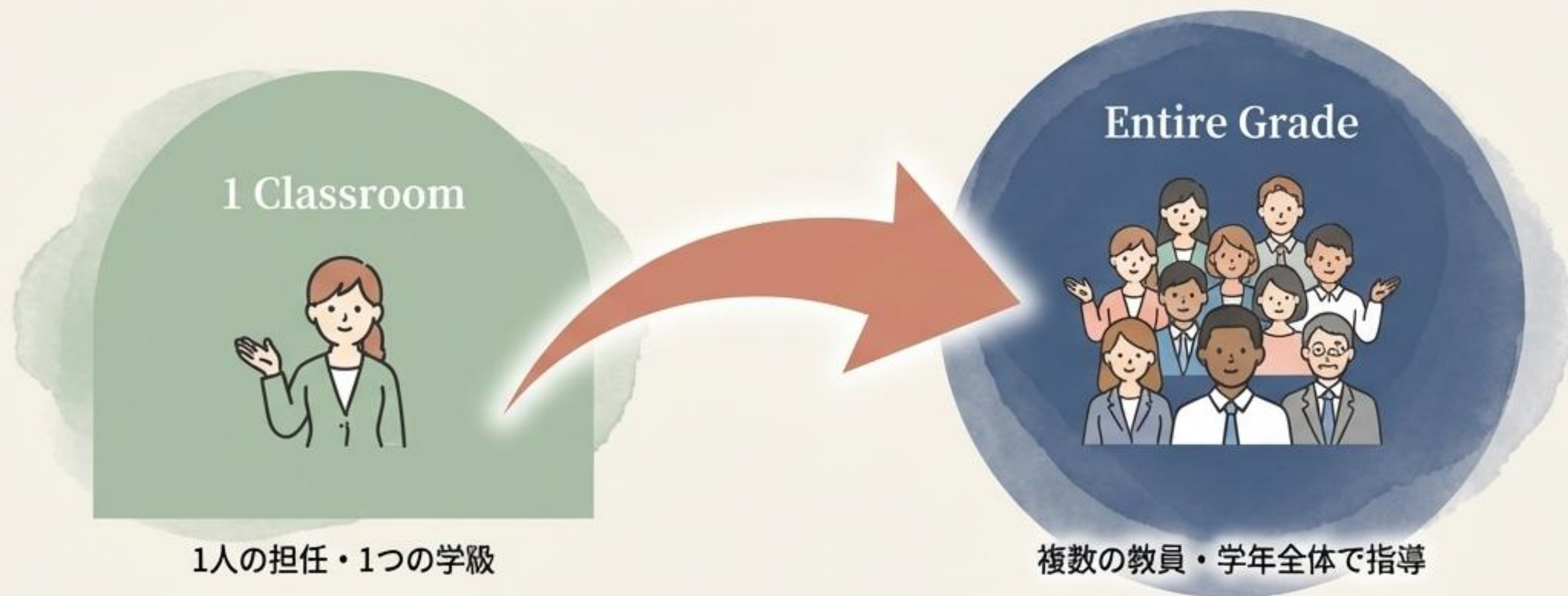
子どもにとっての一年間は、
やり直しのきかない、かけがえのない時間です。

学びの質や心の安心が、
「たった一人の担任」に大きく左右される体制のままでよいのだろうか。
私たちは、その問いに向き合いました。

令和8年度より、4年生以上の学年において「チーム担任制」を導入いたします

これからの学校組織の新しい在り方。

それは、特定の学級担任にすべてを委ねるのではなく、
学年の児童を「学年に所属する教員全員」で育てる体制です。

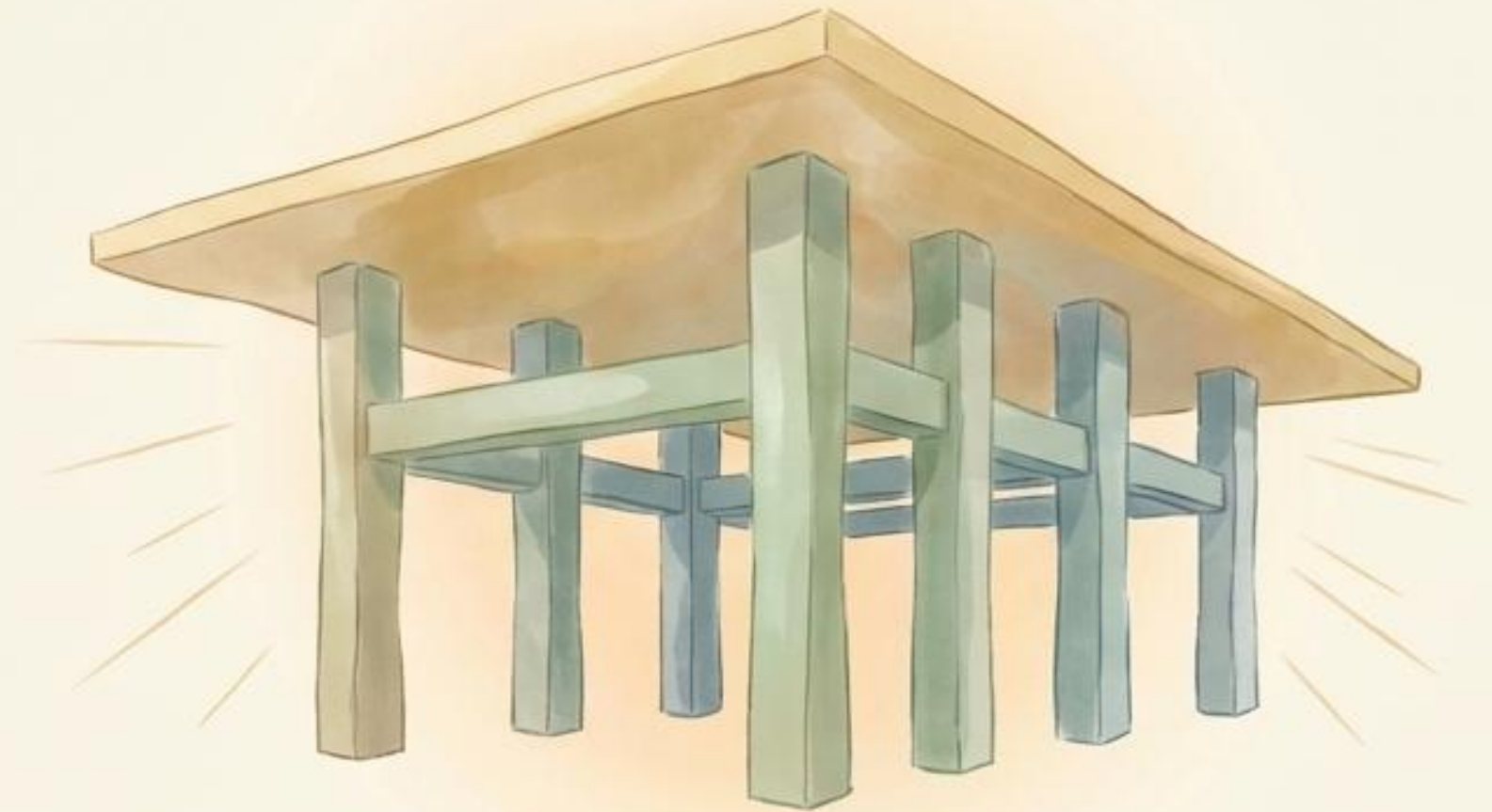


「一人で抱える」から、「複数で見守る」セーフティネットへ

チーム担任制は、単に「担任が頻繁に交代する」ということではありません。
一人の教員が孤立して責任を背負うのではなく、複数の教員が強みを活かし合いながら、
子どもたち全体を面として支える強固な体制をつくることです。



一人で抱える



複数で見守る

メリット①：学びの平等性の保障

「隣のクラスの方がわかりやすい」といった学級間の差をできる限りなくします。

学年の教員チームが共同で授業づくりを行うことで、どの学級にいても等しく質の高い授業を受けられる体制を整えます。

教員同士の知見が共有され、授業の質そのものが向上します。



メリット②：多面的な理解と適切な支援

子どもたちを、一人の見立てではなく「複数の視点」で理解します。

一人の教員の視点だけでは、どうしても思い込みや、静かなSOSの見落としが生じるリスクがあります。複数の目で見ることによって、子どもたちの隠れた長所や、本当に必要な支援を正確に把握できるようになります。



メリット③：人と人としての「相性」への配慮

人と人には、どうしても相性があります。
それは自然なことです。

悩みを相談する相手や、深く関わる
教員を、子ども自身が状況に応じて
「選択」できる環境。それは、子ども
たちにとって計り知れない心理
的な安心材料となります。
逃げ場のない息苦しさをなくします。



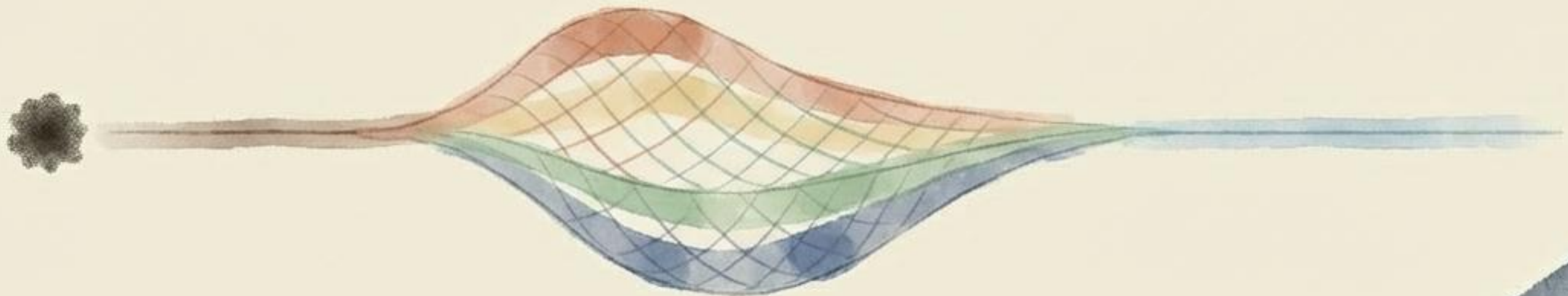
メリット④・⑤：迅速な対応と、孤立の未然防止

- ・組織的なトラブル対応

困りごとが生じた際、担任一人の判断に依存せず、学年チームで共有し対応します。これにより、対応の遅れや偏りを防ぎます。

- ・不登校や不安定の芽を摘む

複数の目で日々の小さな変化を早期に察知し、子どもが孤立を深める前に、いち早く手を差し伸べることが可能になります。



現状維持ではなく、最善に向けた『挑戦』を選びます

もちろん、新しい制度には課題もあります。

複数の教員が関わることに戸惑う児童や、誰とも相性が合わないと感じる瞬間があるかもしれません。

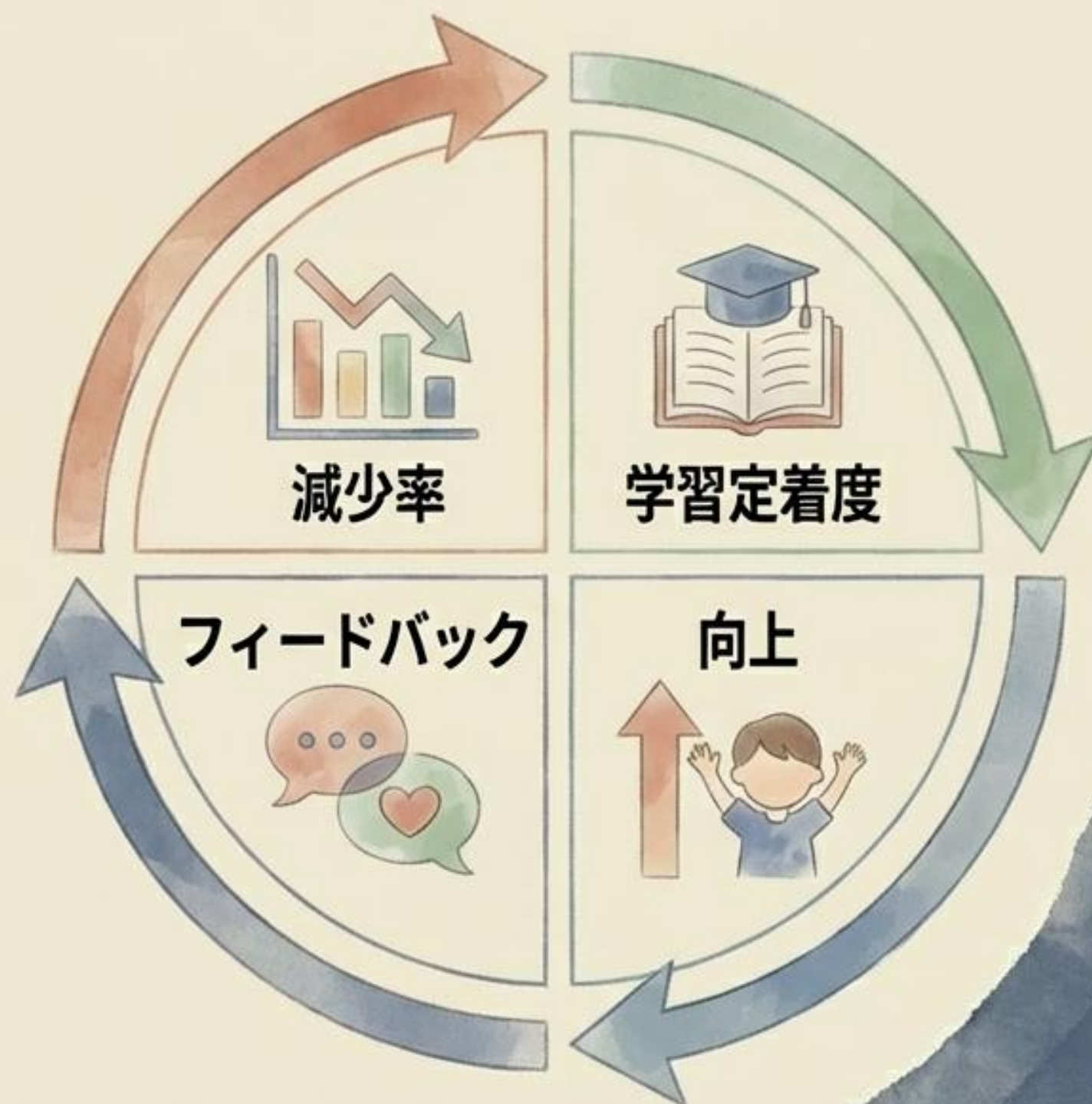
しかし、現状の体制のままでは、**学級間格差や相性による不登校傾向などの深刻な課題は拡大する一方です。**

私たちは『**何もしないリスク**』よりも、子どもたちのために『**改善に向けて踏み出す**』ことを選択しました。

導入後の成果は、具体的な姿で検証し続けます

この取り組みは、導入して終わりではありません。以下の指標を通じて、常に改善を続けてまいります。

- ・不登校および不登校傾向児童の減少率
- ・学力調査結果を通じた学習定着度
- ・子どもたちの学ぶ姿勢や生活態度の向上
- ・保護者の皆様からの率直な声やフィードバック



「誰の学級か」から、「学年全体で育てる」学校へ

これからは、自分のクラスの子・他のクラスの子という垣根を越えます。

考え続け、改善し続けること。

それこそが、現代の子どもたちに本当に必要な「質の高い、公平性のある教育」につながると確信しています。





子どもたちの一年間は、 二度と戻りません。

この大切な時間を、教職員のチーム、
そして保護者の皆様とのチームで、
全力で守り育てていきたいと願っております。

新しい挑戦へのご理解と、温かいご協力を
心よりお願い申し上げます。